

自動車部品メーカーのカネミツ(明石市)が、長年培った開発製造技術を生かし、ハイボール用タンブラーを作った。同社初の一般消費者向け製品で、きめ細やかな炭酸や豊かな香り、口当たりの良さにこだわった。8月の発売に先立ち、クラウドファンディング(CF)で100個限定販売したところ1日で「完売」。注目の高さをうかがわれた。現在、第3弾の先行販売を行っている。

(大島光貴)

カネミツ初の消費者向け製品



神戸・三宮のビジネス交流拠点アンカー神戸が縁で知り合ったコンサルタンの支援を受け、「贅沢な時間は、日常を彩る」をスロ

タンブラー 車部品技術で挑戦

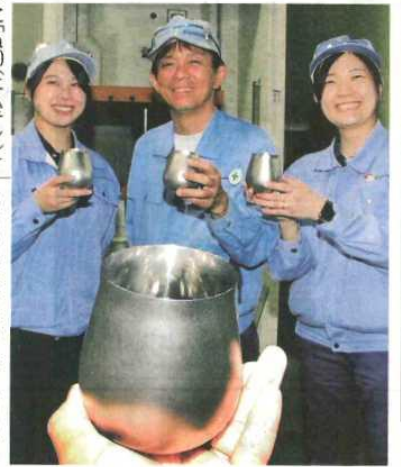
1ガンに、m10(エムテン)というブランドを新設。社員に酒好きが多いこともあり、第1弾商品をハイボール用タンブラーに決め、飲み方にこだわる人をターゲットに据えた。

厚さ1.2mmのステンレス鋼板をプレス機でカップ状に加工し、薄く伸ばした後、内側から膨らませて、ワイングラスのような丸みのある形に。内側は滑らかな鏡面に仕上げ、炭酸を抜けてくくした。口元にかけて径を絞って香りを閉じ込めるほか、口元を外側に反らせることでハイボールが口の中に勢いよく流れ込み、炭酸が上品にはじけるようにした。

メンバーの一人で、先行開発室の松井麗(さん)47は「難易度の高い形で、ステンレス特有の割れが常に付きまとうものづくりだった」と振り返る。試作・開発で重ねた失敗作は約200個。試行錯誤の末、割れの原因となる材料の伸びを抑えながら、成形する手法を見いだしたという。

五感を使った試験では、タンブラーを冷凍庫で10分間冷やせば、炭酸が抜ける原因となる水を使わなくて

ステンレス鋼板(左端)からタンブラー(右端)が出来上がるまでの製造工程。いずれも加西市網引町丸山、カネミツテクノニカルセンター



カネミツが作ったハイボールタンブラーと、新規事業プロジェクトに携わった(左から)松村理沙さん、松井麗(さん)野口沙耶夏さん

も冷たさや炭酸が10分間持続することを確認。口元は0.3mmまで薄くできたが、口当たりの良さから0.4mmとした。

新製品「entente-tumbler(エムテンタンブラー)」は約700円で6600円。6月28日午前10時に始めたCFは29日午後1時ごろ限定100個を完売した。営業部の野口沙耶夏(さん)29は「初のB to C(消費者向け)ビジネスで抱えていた不安を打ち消すほどうれしかったと喜ぶ」。

同社は100個の追加生産を決め、7月1日午前11時にCFサイト「キャンプファイヤー」で販売を開始。5日間で完売したため、8日からさらに100個を追加した。CFは31日まで。8月1日には電子商取引(E-commerce)サイト(https://www.entente.jp/)で一般発売する。

経営企画部の松村理沙(さん)29は「メンバー全員で進めた商品が形となり、ありがたい反応をいただけた。日常を彩る商品がお手元に届くまで、引き続き頑張りたい」と気を引き締めた。

部門を超えた7人が新規事業 100個先行販売 1日で完売